

霍公鳥を詠む歌一首 并せて短歌

四二〇九番

谷たに近く 家いへは居をれども 木こだか高くて 里さとはあれども
ほととぎす いまだ来きな鳴かず 鳴なく声こゑを 聞きかま
く欲ほりと 朝あしたには 門かどに出いで立たち 夕ゆふへには 谷たに
を見渡みわたし 恋こふれども 一ひとこゑ声だにも いまだ聞きこ
えず

四二一〇番

藤波ふぢなみの 茂しげりは過すぎぬ あしひきの 山やまほととぎ
す などか来きな鳴かぬ